

▶ 20日 土曜

マルコ

7:24 イエスは立ち上がり、そこからツロの家に入つて、だれにも知られないでいることをできなかつた。

7:25 ある女の人が、すぐにイエスのことを見つけて来てその足もとにひれ伏した。彼女の幼い娘は、汚れた畳につかれていた。

7:26 彼女はギリシア人で、シリア・フェニキアの生まれであつたが、自分の娘から悪霊を追い出してくださいました。彼女は、自分に願つた。

7:27 するとイエスは言われた。「まず子どもたちを満腹にさせなければなりません。子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げやるのは良くないことです。」

7:28 彼女は答えた。「主よ。食卓の下の小犬でも、子どもたちのハシ屑はいただきます。」

7:29 そこでイエスは言われた。「そこまで言うのなら、家に帰りなさい。悪霊はあなたの娘から出て行きました。」

7:30 彼女が家に帰ると、その子は床の上に伏していましたが、悪霊はすでに出ていた。シドン

7:31 イエスは再びツロの地方を通り抜けて、ガリラヤ湖に来られた。

7:32 人々は、耳が聞こえず口のきけない人を連れて来て、彼の上に手を置いてくださいと懇願した。

7:33 そこで、イエスはその人だけを群衆の中から連れ出し、ご自分の指を彼の両耳に入れ、それから唾を付けてその舌にさわられた。

7:34 そして天を見上げ、深く息をして、その人に「エバタ」、すなわち「開け」と言われ

た。
7:35 すると、すぐに彼の耳が開き、舌のむつれが解け、はつきりと話せるようになった。

7:36 イエスは、このことをだれにも言ってはならないと人々に命じられた。しかし、彼らは口止めされればまるほど、かえつてますます言い広めた。

7:37 人々は非常に驚いて言った。「この方のなさったことは、みなすばらしい。耳の聞こえない人たちを聞こえるようにし、口のきけない人たちを話せるようにされました。」

イエス様は「小犬に投げてやる」などと、失礼な言い方をなさますが、それは彼女がギリシャ人であつて異邦人だからです。旧約時代は救いはイスラエルだけだと見えられていきました。イスラエルを救るために、そのようなことを言つたのです。

この女性は、イエス様が自分を含めた全民族のための救い主であることを知って、求め焼けました。また神はイスラエルを救つた後に異邦人を救う力があると信じていました。

その点をイエス様は認めなくてはいけません。私たちも主イエスの絶大な力を信じましょう。一度も、主に食い下がりましまじょう。

この耳が不自由な人の記事も、また、信仰の状態を象徴するような出来事です。実際に障害があることが問題なのです。イエス様はそのことに対する感覚が見えないことがあります。この耳が不自由な人の記録はそのことでも、主に感覚するようになります。そこには問題なのです。この耳が不自由な人の行動でした。その後の至つて、この話せなくなつた人の行動は、あります。主イエスの立場を悪くするおそれがあつましたが、伝えにはいられないという思いは見習うべきです。



聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は取るとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？